



生涯学習にいがた

第1回 家庭教育支援事業の企画力向上セミナー ～行列のできる講座の作り方～

当事業は、昨年8月にも実施した人気講座です。企画担当者としては事業参加人数の多寡が評価の重要なポイントでもあり、気になるところです。

昨年度は2日間研修で、2日目には前日作成した企画書をコンピュータで広報チラシにし、さらに参加者が互いに各広報チラシを評価するという内容でした。（広報チラシは、当センターホームページに掲載中です。）

昨年の反省を生かし、今年は以下の2点に重点をおきました。

- ・講師が企画して行列ができなかった講座の評価結果を資料として、事業評価を生かした企画会議について体験する。
- ・開催時期を年度当初（5月）に設定し、今年度の企画立案に役立ててもらおう。



模擬企画会議の熱気あふれる研修風景

さて、研修当日は写真のように熱気あふれるものでした。班ごとの模擬企画会議では、皆さんの鋭い指摘に講師もたじたじという場面もありました。

人気が高かったのは、講師が企画した講座の広報チラシを見て、実際の参加人数が定員を超えたかどうか考えるというクイズ形式の演習でした。チラシの内容やレイアウトから個人で判断し、その後、班全体で意見をまとめます。班のメンバーは、年齢・性別・職業などを離れた組み合わせなので、意見はなかなかまとまりません。「講座の参加対象者の年代に近い人の判断に任せると正答率が高いですよ。」という講師のアドバイスがありました。

講師は、東京都「エセナおおた」に勤務し、企画した講座の平均応募倍率が定員の3.3倍を誇る実践家で、説明の言葉に説得力があります。

集まらない企画担当者の言い訳ベスト3は「人口が少ない」「天気が悪かった」「住民の意識が低い」だそうです。皆さんの企画はどうでしょうか。



力強く分かりやすい講義をする牟田静香講師

家庭教育サポーター養成研修会公開講演会

『しあわせ脳』に 育てよう

（講師）株式会社感性リサーチ代表取締役

黒川 伊保子さん



講師は、「世界一受けたい授業」「日本語なるほど塾」出演で有名なイホコ先生。脳科学からみた「幸福な脳」育ての極意を子ども達の成長段階に合わせて分かりやすく話します。「日本語はなぜ美しいのか」など著書多数。

（日時） 11月21日（水）

午前10時～11時45分

（会場） 新潟ユニゾンプラザ

新潟市中央区上所二丁目

（申込み受付開始）

10月15日（月）

電話025（284）6110

●概論(講義)と演習(実技研修)の研修構成

●概論は8月3日(金)に開催

演習は8月～10月に6回実施

当センターでは、視聴覚機器や情報機器を必要に応じて適切に活用できる能力の向上を目指して、研修会を毎年実施しています。

今年の演習には、「上級」コースを新設し、「初級」「中級」「上級」でスキル・アップを図っています。演習では、教育メディアを、学校の授業改善や、公民館・視聴覚ライブラリーの事業運営に役立てようと、受講生のニーズに応じた、より実践的な内容で取り組んでおります。

まだ、受講生の募集を行っています。ICT講習会を企画する方や、情報教育・メディア教育に関心のある方は、当センターに申し込んでください。

「中級」の第2回は、
10月5日(金)、11日(木)
の2日間で行います。



【演習「初級コース」受講生の声】

- ・プレゼンテーションのやり方が分かり、学校現場に合う内容で、とてもよかった。
- ・ビデオを撮影する作業や、ビデオ編集も、座学と違って、あっという間に時間が過ぎてしまいました。
- ・技術を教えてもらっただけでなく、著作権に関する資料もいただき、とても役に立ちました。

【演習「中級コース」受講生の声】

- ・これまで困っていたパワーポイントの作成が、十分理解できました。これで、新学期から、悩まずプレゼンテーションも活用していきます。
- ・ウェブサイトの構成、ウェブサイトの制作、公開していく上での心構えなどについて、丁寧に指導していただき、今後のサイト作りの参考になりました。

学校や生涯学習施設の課題解決に向かって、受講者の声を尊重し、来年度もニーズに沿った教育メディア研修を実施していきます。

映像教育の推進

「16ミリ映写機操作技術講習会」「視聴覚教材の貸出」

当センターでは、「16ミリ映写機操作技術講習会」を、教職員や県行政関係者及び学生等を対象に毎年実施しています。16ミリフィルムの映像の鮮明さや色合いは、大変優れており、映像による教育は、広汎な知性や豊かな感性を育てます。学校や幼稚園・保育園、公民館等での利用はもちろんのこと、心の教育や文化教養講座等、16ミリフィルムの活用方法は多様です。

なお、今年度の講習は終了しましたが、興味のある方は問い合わせてください。



当センターでは貸出可能な16ミリフィルムが約1,800本、ビデオが約1,200本ほどあります。タイトルや内容は、当センターが運営している生涯学習情報提供システム「ラ・ラ・ネット」で検索できます。

なお、利用できるのは、県立の施設、高等学校や大学等の登録団体です。

市町村立の学校や地域の団体等は、県内の地域視聴覚ライブラリー・センターを利用してください。(ラ・ラ・ネット参照)



操作実習の様子

第1回 地域・家庭・学校・行政を結ぶ人づくり・まちづくり研修会

～「若者が育つ地域づくり」～

- ◇期 日 6月11日(月) ◇会 場 長岡市立劇場大会議室
- ◇テーマ 「若者の地域活動の充実と活性化の方策」
- ◇ねらい 「地域の特性を生かし、地域・家庭・学校・行政を結んだ生涯学習による人づくり・地域づくりを進めるため、仕組みのあり方について研修を深め企画力・運営力の向上を図る。」
- ◇参加者 県内各市町村の生涯学習・社会教育担当職員、学校職員、教育コーディネーター、地域でボランティア活動をしている人など(約40名)

昨年度までの研修を踏まえるとともに、今年度は中・高校生を含む若者が育つ地域づくりについて、その仕掛けや仕組みを考える研修会としました。

【午前】「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」の取組について

東京都教育庁生涯学習部計画課計画係 梶野光信さん

若者を対象とした事業への参加者が少ない要因や企画することの必要性などを中心に取組の紹介がありました。特に、仕組みづくりについて、理論と実践事例の丁寧な説明があり、中身の濃い事例発表でした。

【午後】「地域教育推進ネットワーク東京都協議会」の取組の中から2事例の発表

「渋谷ファンインの取組」

渋谷ファンイン事務局 相川良子さん(渋谷区青少年教育コーディネーター)

「NPOスクールアドバイスネットワークの取組」

NPOスクールアドバイスネットワーク理事長 生重幸恵さん(杉並区学校教育コーディネーター)

子どもや若者の現状分析、向き合い方、活動の進め方など、現状やかかわり方について、実践に基づく説明がありました。また、アイデア一つで活動が豊かになること、そして、その活動をさらに元気なものにするためには、様々な人を巻き込むことが大切であることなど、力のこもったお話がありました。

受講者から「くすぶっていた火種に炎がともったような気がしました。」などの感想が寄せられました。

今回は、11月29日(木)、「県内の実践事例に学ぶ」をテーマとして、えにし屋の清水義晴さんを講師に実施します。多くの皆様の参加をお待ちしています。

にいがた連携公開講座2007



にいがた連携公開講座は当センターなどを会場に、市町村及び大学等と連携し、テレビ会議システムを活用して、講演を複数の会場に配信して行う講座です。

◇第1回 7月7日(土)

◇主会場 長岡市小国公民館

◇受信会場 新発田市加治川地区公民館、県立生涯学習推進センター

◇テーマ 「食育の重要性と食環境との関わりについて」

◇講師 佐藤恵美子さん(県立新潟女子短期大学准教授)

社会環境や生活様式の変化により、朝食の欠食、偏食、孤食、思春期の瘦身志向など、心や身体への影響が懸念されることや食文化や伝統料理(食)の大切さについての内容でした。講義後参加者からサプリメントの取り方など多くの質問があり、食に対する関心の高さを示していました。

8月29日に、刈羽村生涯学習センター「ラピカ」で実施予定だった第2回講座「古代製鉄遺跡と生産集団」は、中越沖地震でラピカが避難所となったため、県立生涯学習推進センターのみで実施しました。刈羽村からの参加者(64名)もあり、大勢の方々が古代のロマンに味わいました。

年間8回の講座を実施します。今後、10月20日(土)、11月8日(日)、12月12日(水)の3回の講座が予定されています。詳しくは、当センター「ラ・ラ・ネット」をご覧ください。

H19 新潟県立青少年研修センターの11月主催事業の案内

「いきいき体験学」 第4回 ワークショップ編

- 日 時:11月10日(土)～11月11日(日) 1泊2日
- 場 所:新潟県立青少年研修センター
〒953-0012
新潟市西蒲区越前浜5597-1
- 内 容:ワークショップの理論と実践をとおして、青少年指導者としての資質や指導力の向上を図る。
- 定 員:30人
- 対 象:18歳以上の青年、青少年指導者等(高校生を除く)
- 費 用:2500円(予定)
- 申込締切:平成19年11月2日(金)
- 問合せ:県立青少年研修センター 研修課
TEL0256-77-2111

“さわやか”メール

「不易と流行」は教育によく登場する言葉ですが、最近は「流行」が「不易」を大きく包みこんでいます。底辺には激化する「競争社会」や過剰な「サービス社会」「消費社会」が横たわっています。教育も「サービス」の色合いを濃くして、「教育サービス」と「消費者(学習者)」の関係に変わり始めています。家庭、地域だけでなく、学校までも消費社会にのみ込まれたといわれています。

集団で生きる動物としての人間にとって、個人の利益だけ追い求める社会構造や価値観の中では、子どもも大人も成長がきわめて困難なものとなります。そんな時代には、学校教育も社会教育も、社会の支配的な価値観から少し離れたところを見つめ、少しずつれた価値観をもって進めていくことも大切ではないでしょうか。

「おかげさまで」「もったいない」「いただきます」などは、今の社会の流れから見れば、少しずつれた、しかし、それゆえにかけがえのない、日本文化を支える重要な価値観かも知れません。

● 新潟県生涯学習情報提供システム「ラ・ラ・ネット」

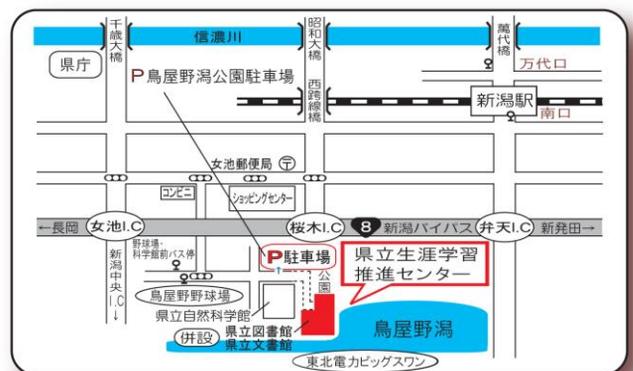
<http://www.lalanet.gr.jp/>
携帯版は、<http://www.lalanet.gr.jp/m>

● 家庭教育・子育てで電話相談「すこやかコール」

TEL:025-283-1150 FAX:025-284-6019

● 生涯学習相談(兼新潟県体験活動等支援センター)

TEL:025-284-6119 soudan@mail.lalanet.gr.jp



新潟県立生涯学習推進センター 新潟市中央区女池南3-1-2 TEL:025-284-6110 FAX:025-284-6019

(URL)<http://www.lalanet.gr.jp/nlpc/> (e-mail)nlpc@mail.lalanet.gr.jp

平成19年4月1日、新潟市の政令都市移行に伴い、当センターの住所表示が上記のとおり変更になりました。お手数ですが、お手元の住所リストの訂正をお願いいたします。